

教育システム情報学会

Japanese Society for Information and Systems in Education



発行日 2002年 9月28日
発行所 教育システム情報学会
発行者 岡本敏雄
・ 661-8520 尼崎市南塚口町7-29-1
園田学園女子大学情報教育センター内
・ 06-4961-6507 FAX06-4961-6508
<http://www.jsise.org/>
E-mail:secretariat@jsise.org

ニュース・レター No.120

第 93 回研究会発表募集延長のお知らせ

言語・知識処理応用研究部会（部会長 / 伊藤紘二）

下記のとおり、発表申し込み、並びに原稿送付の期限を延長いたしますので、ふるって、ご発表の申し込みをお願いいたします。言語・知識処理応用研究部会は、学習をコミュニケーションと見る視点から、インターフェイスも含めて、従来の形にとらわれない言語教育、あるいは、言語や知識の取り扱いを取り入れた学習・教育支援システムの研究を、いろいろな分野から学びながら、活性化していくことを目指しています。昨年来、既に2回の研究会を持ちましたが、2002年度も下記により、研究会を開催します。つきましては、奮ってご応募くださるよう、お願い申し上げます。

日時：2002年12月21日(土) 10:30～17:00（時間は予定です）

会場：上智大学（東京：四ツ谷）

内容：公募研究発表

言語処理、知識処理、知的インターフェイスに関するチュートリアル実践の研究の依頼講演
ディスカッション

なお、研究会終了後、懇親会を予定しています。こちらも是非ご参加下さい(会費3,000円程度)。

問い合わせ先（担当幹事）：田村恭久（上智大学工学部機械工学科）

E-mail: ytamura@me.sophia.ac.jp

研究発表募集

申込締切：2002年11月15日（金）（11月1日から延期）

原稿締切：2002年12月6日（金）（12月1日から延期）（原稿は2Pから6Pの偶数ページで）

下記のフォームで担当幹事までメールでお申し込みください。

発表タイトル：

著者・所属：

発表概要（数行程度）

著者連絡先：

原稿ページ数（2, 4, 6のいずれか）：

とくに、この部会では、従来の形態の研究会より一歩ふみこんだ研究者間の交流の場の形成を最大の主眼にしております。詳しくは <http://www.itlb.te.noda.sut.ac.jp/~itoh/nlkp/nlkp.html> をご覧ください（JSiSEのホームページからもリンクされています）。

なお、部会員相互の議論の場として運用中の CoAFAQ (Collaboratively Answered Frequently Asked Questions)は、現在、都合で停止中です。回復しましたらお知らせします

ご意見等ございましたら itoh@te.noda.sut.ac.jp 宛にメールをいただければ幸いです。

第 93 回研究会のお知らせ

言語・知識処理応用研究部会（部会長 / 伊藤紘二）

プログラム

日 時：2002 年 12 月 21 日(土) 13:00～17:30

会 場：上智大学 中央図書館 8 階 L・8 1 2 室

所 在 地：東京都千代田区紀尾井町 7・1

連 絡 先：03-3238-3003（田村研究室） 03-3238-3291（L-812 室）

交通案内：JR・地下鉄 四谷駅より徒歩 5 分

（キャンパスマップ、アクセスガイドは、

<http://www.sophia.ac.jp/J/sogo.nsf/Content/top> をご覧ください）

「電子テキスト&ノートによる学習システム」

奥田富蔵（東海大学）

「参照情報を保持する日本語読解支援システム」

石川賢太郎、大崎 大、伊丹誠、伊藤紘二(東京理科大学)

「知的英語学習支援システムの質問応答機能における意味的正誤判定」

本田 実、國近 秀信、平嶋 宗、竹内 章（九州工業大学）

「学習者の教材解釈に着目した学習ドメインの分析と再利用」

三ツ井 淳、大塚哲也、田村恭久（上智大学）

「学習支援エージェントを用いた学習者状態に適應する誘導方法」

清水友明、田村恭久（上智大学）

「協調学習記述のためのメタモデルの検討」

香山瑞恵（専修大学）、井上智雄（国立情報学研究所）、岩崎公弥子
（電気通信大学）、田村恭久（上智大学）、宮寺庸造（東京学芸大学）、
岡本敏雄（電気通信大学）

「学習支援システムに自然言語による対話を組み込む方法について：文献紹介」

伊藤紘二（東京理科大学）

終了後、軽い懇親会を予定しています（会費 3 千円）。

現在、募集延長中（p1）により、追加プログラムになる予定です。

第 90 回 CAI 研究部会の報告

部会長 / 黒瀬能幸

開催日時：2002 年 10 月 5 日（土）13 時～16 時

開催場所：摂南大学（寝屋川市）

【研究発表概要】

7 件の発表が行われた。発表順に簡単に内容を紹介する。

1 件目は摂南大学の松永氏による「献立作成シミュレーションを用いた食品管理実習におけるフィードバック効果の考察」というタイトルで発表された。演習システムの操作履歴と献立調整過程の記録をフィードバックし、その効果を検討した研究内容であった。2 件目は大阪府立高専の高橋、岡本両氏による「IT 研修のための Web-CAI の開発」という発表であった。教員の IT 研修会用の Web-CAI を開発し、研修期間が限られている IT 研修の補完的な活用試みの報告であった。3 件目は佐賀大学の林氏による「WWW を利用した統合型漢字学習環境の構築」では、これまで種々の漢字学習支援システムを統合する漢字学習支援システム KALIST の概要の報告であった。

4 件目は徳島大学の三好氏の報告で「英作文における語句選択を支援する用例マイニングツールの構築」である。語学教育や作文支援にコーパスを利用していることは多いが、問題点もある。そこで、コーパスがキーワードベースの検索を行っているのに対し、句構造ベースの検索システムを利用した用例マイニングツールを構築している。

指定した語を含む区の検索を行い、その句の前後に出現する句の制度や頻度や出現パターンをマイニングにより提示することで、作文時の語句選択を支援可能だという内容であった。

5 件目は、岡山理大の辻村氏の報告である。タイトルは「CAI 教材作成と修正による評価活動の分析」で、内容は岡山理大で実施している実習報告である。CAI 教示作成を通じて、課題設定力、自己評価力、問題解決能力などの養成を目指している。

6 件目は、広島県立保健福祉大の金井しによる発表である。タイトルは「コ・メディカル学生に対する三次元動画解析データを用いた CAI の開発」で、理学療法士を養成する教育現場で、実際に利用し評価を行っている。最後は広島高専の岡村氏による「逆ポーランド記法を用いたアルゴリズム学習支援システム」の発表で、逆ポーランド記法を用いたアルゴリズム学習支援システムの構築にあたり、学習支援システム利用を想定した予備実験の概要と、あおの結果の報告である。

以上、7 件の発表に対し、活発な質疑討論が行われた。直ちに学会誌に投稿できるほど完成度は高くないが、これからの研究次第で十分投稿可能レベルに達すると思われる発表もあった。

研究発表終了後には、摂南大学内のサロンで懇親会を開催した。研究会参加者のほとんどが参加し、きれいな夕日と、大阪の夜景を楽しみながら、有意義な時間を過ごした。

なお、来年度の CAI 研究部会は 11 月末頃に福井大学で開催することを、部会長と幹事で話し合い、直ちに福井大学に連絡し、了承を得た。

第2回 e - Learning 技術委員会・企業内教育研究部会 合同シンポジウム開催の報告

e ラーニング技術委員会 / 小松 秀圀

平成14年10月18日金曜日、朝10時から18時まで、東京電機大学神田キャンパスで第2回 e - Learning 技術委員会・企業内教育研究部会合同シンポジウムが開かれました。

テーマが高等教育と企業内教育の最新のeラーニング事情を語り合う、本音を引き出しやすいテーマであったためか126名という非常に多くの参加者を得て開催されました。



プログラムは二部構成にして第一部ではアメリカのNPO法人 Teachers International Exchange との交流開催でアメリカから3人のスピーカーにお出で頂き、高等教育でインストラクショナル・デザインの考え方、実践の技術を活かして教育を改善するにはどうしたらよいかを議論しました。

第二部は e ラーニング技術委員会のメンバーとお招きしたスピーカーによるシンポジウムで「E LEARNING はメリットがあるか」と「E LEARNING で満足するか」という本音トークのシンポジウムとなりました。

シンポジウム終了後、35名を越える方が懇親会に参加され夜遅くまでeラーニング談義を深め、メンバーの交流を楽しみました。以下はその概要です。

第一部 シンポジウム 「アメリカでの高等教育」

NPO法人 Teachers International Exchange との交流開催

プレゼンター ; Linda k. Taber Ullar, M. Ed 氏

通訳 (きよみ ハッチングス氏) による日本語のプレゼン内容翻訳と日本語での質問。

トピック1 : アメリカの大学におけるオンライン学習とこれからの大学のあり方

トピック2 : オンライン学習インストラクター (教員養成) プログラムの成功事例

トピック3 : テクノロジーを使った学校教育全体についてのディスカッションーパネルディスカッション

アメリカの高等教育でインストラクショナル・デザインのノウハウを活かして実のある高等教育を構築するにはどのようにしたら良いのかをアメリカから参加するメンバーを交えて議論。

プレゼンテーションに参加した方 (意見・考えを場に提供した方) にはインセンティブ (お菓子 : キャンディー) を配布。次ページへつづく

第二部 シンポジウム 実用期の E LEARNING を考える

(1) シンポジウム「E LEARNING はメリットがあるか」

司会； NTTラーニングシステムズ株式会社	企画調査室長	小松秀園
パネラー；		
メディア教育開発センター	教授	吉田 文
東北大学	教授	渡部信一
(株)ビジネスブレークスルー	取締役	伊藤泰史
日立製作所 e-ラーニングソリューションセンタ	主任技師	西岡佳津子
メディア教育開発センター	教授	吉田 文
1 e-Learningのメリット		
2 わが国におけるe-Learningの状況		
3 供給する相手の問題		
4 コストの問題		
5 教育の質・効果の問題		
6 学習者の問題		
7 自己満足か収益率か		
東北大学	教授	渡部信一
1 東北大学インターネットスクール		
2 e-Learningはメリットがあるか？		
3 表面的メリット		
4 本質的メリット		
5 今後の課題		
(株)ビジネスブレークスルー	取締役	伊藤泰史
1 意見の分かれるe-Learning		
2 何故、意見が分かれるか		
3 目的関数		
日立製作所 e-ラーニングソリューションセンター	主任技師	西岡佳津子
1 アメリカの活用状況		
2 日本における活用状況		
3 日本企業がe-Learningのメリットを享受するためには？		

(2) シンポジウム「E LEARNING で満足するか」

司会； NTT アドバンステクノロジー(株)関連企業本部	技師長	二瓶文博
パネラー；		
大谷女子大学	教授	大倉孝昭
産業能率大学 E LEARNING 企画室	室長	古賀暁彦
NTT-X	事業部長	仲林 清
東京大学	助教授	山内祐平
大谷女子大学	教授	大倉孝昭
1 e-Learning 導入目的		
2 長期欠席者の行動		
3 アンケート結果		
4 まとめ		

産業能率大学 E LEARNING 企画室

室長 古賀暁彦

- 1 e-Learning って何？（その定義）
- 2 満足度は測定できるか
- 3 Blending は万能か？
- 4 本当に求められるサポートは何か？
- 6 音が出て絵が動けばいいのか？

NTT - X

事業部長 仲林 清

- 1 e-Learning の満足度
- 2 満足度を高める工夫
- 3 供給側の論理

東京大学

助教授 山内祐平

- 1 iii online の概要
- 2 受講者の評価
- 3 課題

今回の e ラーニング技術委員会シンポジュームの開催予定は 2003 年 4 月でテーマは「企業内教育と大学が e ラーニングで連携できるか」と「企業と大学との連携、アメリカで出来て日本でできないのはなぜか」を予定しております。シンポジューム参加ご希望の方はご案内を差し上げますので、小松 秀園 komatu@hot.nttts.co.jp までご連絡下さい。

The Joint Workshop of Cognition and Learning through Media-Communication for Advanced E-Learning



開催案内



JSISE では、国際化活動の一環として、題記のワークショップを企画しました。詳細は今後のニュースレターならびに下記 WWW にてお知らせいたします。奮ってのご応募をお待ちしております。

期日：2003 年 9 月 15 日（月）～ 16 日（火）

場所：JDZB (Japanese-German Center Berlin) in Berlin, Germany

原稿切：2003 年 3 月（暫定：詳細は決まり次第お知らせします）

使用言語：英語

ワークショップ WWW ページ：<http://www.jsise.org/jwcl/>

なお、このワークショップに先立ち、下記の学会が開催されます。このなかで、国際水準の研究発表のため、英語によるセッションが開かれる予定です。こちらにも併せて積極的なご応募をお願いいたします。

リトアニア共和国 遠隔教育ネットワークコンファレンス

期日：2003 年 9 月 11 日（木）または 12 日（金）

（英語セッション）

場所：リトアニア共和国 カルナス

使用言語：英語

WWW ページ：上記ワークショップの WWW ページよりリンク予定

情報教育シンポジウム報告

情報教育特別委員会委員長 / 磯本征雄

去る10月26日、龍谷大学紫光館にて、本学会・情報教育特別委員会主催の情報教育シンポジウムをタイトル「情報教育推進のための提言」で開催しました。岡本敏雄会長の開会挨拶があり、続いて西之園晴夫先生より基調講演「情報・学習そして知識創造科目の開発」で新しい形態の教育について実践例を交えた講演を頂きました。後半は、情報教育推進のための提言ということで、下記のプログラムに示す7名の登壇者が講演し提言を行うと共に、全参加者（49名）による公開討論を行いました。高度なテーマにもかかわらず、提言の内容に関して制限時間を超える活発な討論がなされました。この内容は、その後もセミナーなどによる討論を重ねて、提言書の体裁にまとめていく予定になっています。

【シンポジウム概要】

日時：2002年10月26日（土） 13:30～17:00（終了後に懇親会）

場所：龍谷大学 紫光館（深草キャンパス近く）4階会議室

参加者：49名

主催：教育システム情報学会 情報教育特別委員会

共催：教育システム情報学会 関西支部

（プログラム）

13:30～14:30 基調講演：「情報・学習そして知識創造科目の開発」

講師：西之園晴夫先生（佛教大学教授）

14:40～17:00 情報教育推進のための提言

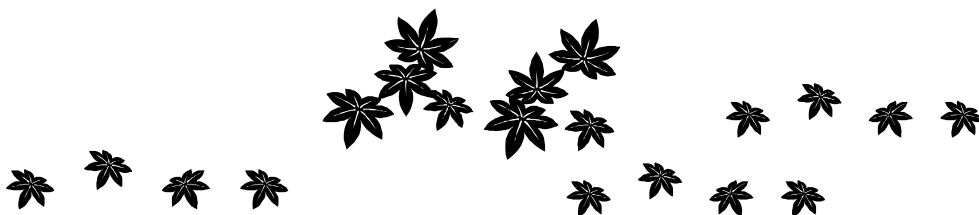
講演者：

磯本征雄氏（名古屋市立大学大学院教授）、松居辰則氏（電気通信大学大学院助教授）

西野和典（大阪電気通信大学講師）、夜久竹夫（日本大学教授）

細井秀樹（コースウェア技研社長）

平澤洋一、渋井二三男（城西大学女子短期大学部教授）





第 94 回研究会

発表募集のご案内

情報教育研究部会 (部会長/松永公廣)

情報教育研究部会を以下の容量で実施したいと思います。情報教育用システム、センター運営、情報倫理、セキュリティ、情報教育用教材、教化「情報」関係、情報教育の実践、その他一般を募集します。ご参加をお願いします。

- 1 開催日 2003 年 3 月 15 日 (土)
- 2 会 場 大阪電気通信大学
- 3 申込先 摂南大学 経営情報学部 松永公廣
eメール matunaga@kjo.setsunan.ac.jp
送 付 先 〒572-8505 大阪府寝屋川市池田仲中町 17 番 8 号
T E L . 072-839-9266
- 4 申込方法 下記の内容をお知らせください。
 - (1) 発表題目
 - (2) 発表者すべてのお名前、所属
 - (3) 発表代表者のお名前、連絡先

なお、原稿のページ数は 4 ページから 8 ページまでの偶数ページの予定です。

- 5 申込締切 2003 年 1 月 15 日 (水) 必着
- 6 原稿締切 2003 年 2 月 15 日 (土) 必着
- 7 問 合 先 摂南大学 経営情報学部 松永公廣



新入会員の紹介

新入会員（敬称略）

JSiSE-A0201946	田中 毅	パナソニックラーニングシステムズ（株）	正会員
JSiSE-A0201947	高橋一夫	仏教大学	正会員
JSiSE-A0201948	黒田恭史	仏教大学	正会員
JSiSE-A0201949	栗原 裕	愛知大学	正会員
JSiSE-A0201950	深海 悟	大阪工業大学	正会員
JSiSE-A0201951	古川耕平	近畿大学大学院	準会員
JSiSE-A0201952	島田雅史	香川大学大学院	準会員
JSiSE-A0201953	萩原秀和	香川大学大学院	準会員
JSiSE-A0201954	稲見 望	香川大学大学院	準会員
JSiSE-A0201955	西田裕一	香川大学大学院	準会員
JSiSE-A0201956	望月俊男	総合研究大学大学院	準会員
JSiSE-A0201957	安藤聡志	鈴鹿医療科学大学大学院	準会員
JSiSE-A0201958	松田岳士	青山学院大学大学院	準会員
JSiSE-A0201959	竹林洋一	静岡大学	正会員
JSiSE-A0201960	矢島 彰	京都大学大学院	正会員
JSiSE-A0201961	山下健司	日本アイ・ビー・エム（株）	正会員
JSiSE-A0201962	山本芳人	東京理科大学	正会員
JSiSE-A0201963	藤原伸彦	鳴門教育大学	正会員
JSiSE-A0201964	古賀暁彦	（学）産業能率大学	正会員
JSiSE-A0201965	本田敏明	茨城大学	正会員
JSiSE-A0201966	二宮利江	茨城大学	正会員
JSiSE-A0201967	森尾博昭	大阪大学	正会員
JSiSE-A0201968	大笹いづみ	パティ・コミュニケーション（株）	正会員
JSiSE-A0201969	平田幸男	台北日本人学校	正会員
JSiSE-A0201970	野口光孝	道都大学	正会員

2002年度新入会員（2002年9月18日～11月20日）

国際会議の案内

国際会議は、教育システム情報学会の会員のみなさんからの紹介やインターネット上で流れている CFP 情報をもとに編集されています。会員のみなさんに紹介したい国際会議などがありましたら、下記までご連絡下さい。また、実際に国際会議に参加されたレポートなどを送っていただければ今後の国際会議の案内作成の際に大変参考になりますので、そちらのほうもお待ちしております。

本案内はWWW

(<http://www.fu.is.saga-u.ac.jp/~hayashijsise/conf.htm>) で見ることできます。

新着情報 4 件

e-Society 2003: IADIS International Conference

開催日程:2003年6月3日-6日

開催地:Lisbon, Portugal

論文応募締切:2003年1月8日

URL: <http://www.iadis.org/es2003/>

e-mail: secretariat@iadis.org

AIED 2003: 11th International Conference on Artificial Intelligence in Education

開催日程:2003年7月20日-24日

開催地:Sydney, Australia

論文応募締切:2003年1月9日

URL: <http://www.cs.usyd.edu.au/aied/>

e-mail: hoppe@informatik.uni-duisburg.de, felisa@lsi.uned.es

Hypertext 2003: 14th ACM Conference on Hypertext and Hypermedia

開催日程:2003年8月26日-30日

開催地:Nottigham, UK

論文応募締切:2003年2月15日

URL: <http://www.ht03.org.uk/>

e-mail: lac@ecs.soton.ac.uk

国際会議案内文責 松原 行宏 (香川大学)

E-mail: matsubar@eng.kagawa-u.ac.jp

INTERACT 2003: 9th IFIP TC 13 International Conference on Human-Computer Interaction

開催日程:2003年9月1日-5日

開催地:Zurich, Switzerland

論文応募締切:2003年1月26日

URL: <http://www.interact2003.org/index.htm>

e-mail: info@interact2003.org

再掲載情報 5 件

CSCS 2003: Computer Supported Collaborative Learning

開催日程:2003年6月14-18日

開催地:Bergen, Norway

論文応募締切:2002年12月7日

URL: <http://www.intermedia.uib.no/cscs/>

e-mail: ogata@is.tokushima-u.ac.jp

UM 2003: 9th International Conference on User Modeling

開催日程:2003年6月22-26日

開催地:University of Pittsburgh Conference Center, Johnstown, Pennsylvania, USA

論文応募締切:2002年11月18日

URL: <http://www2.sis.pitt.edu/um2003/>

e-mail: peterb@pitt.edu

ED-MEDIA 2003: World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia & Telecommunications

開催日程:2003年6月23-28日

主催:AACE

開催地:Honolulu, Hawaii, USA

論文応募締切:2002年12月19日

URL: <http://www.aace.org/conf/default.htm>

e-mail: conf@aace.org

ITHET'03: 4th International Conference on Information TechnologyBased Hogher Education and Training

開催日程:2003年7月7-9日

開催地:Marrakesh, Morocco

論文応募締切:2003年2月1日

URL: <http://www.emi.ac.ma/ithet03/>

e-mail: ithet03@emi.ac.ma

E-Learn 2003: World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, & Higher Education

開催日程:2003年11月7-11日

主催:AACE

開催地:Phoenix, Arizona, USA

論文応募締切:2003年4月30日

URL: <http://www.aace.org/conf/default.htm>

e-mail: conf@aace.org

第 90 回研究報告

【CAI 研究部会】

研究報告書購入ご希望の方は、日本学会事務センター事業部・海外部（学協会刊行物頒布業務）まで、TEL（03-5814-5811）、FAX（03-5814-5822）Eメール（sub@bcasj.or.jp）でお申し込みください。

1部 1,300円（送料共）です。残部切れの際はご容赦ください。

なお、JSiSE 会員で「研究報告」の年間購読（購読料は送料込みで年間 4,000円）をご希望の方は JSiSE 事務局 TEL（06-4961-6507）、Eメール（secretariat@jsise.org）までご連絡ください（年間 6回）。この際、ぜひ購読されますようおすすめいたします（教育システム情報学会研究会委員会担当 / 伊藤紘二）。

.....

- ・開催日：2002年10月5日
- ・場 所：摂南大学

1. 献立作成シミュレーションを用いた食品管理実習におけるフィードバック効果の考察

松永公廣（摂南大学）深津智恵美，森田 薫（園田学園女子大学）森永理恵子（カテナ）西端律子，前迫孝憲，菅井勝雄（大阪大学）

本稿では献立作成演習システムを給食管理教育に効果的に生かすことを目指して、演習システムの操作履歴と献立調整過程の記録から学習者の献立作成過程、問題点埋め込み式演習方法におけるフィードバックの効果を検討したうえ、シミュレーションを利用した献立作成の授業設計、その特徴について考察する。

2. IT 研修のための Web-CAI の開発

高橋参吉，岡本一祥（大阪府立工業高等専門学校）

筆者らは、簡単に Web 上の電子問題集が作成できる支援システムを開発し、Web-CAI を開発し、プログラミング演習に利用してきた。夜間短大、大学での集中講義など十分な演習時間が確保できない場合には、特に学生の教育に役立っている。本稿では、教員用の IT 研彦のための Web-CAI を作成し、研修時間が限られている IT 研修の補完的な教材としての活用を試みる。

3. WWW を利用した統合型漢字学習環境の構築 林 敏浩，林田行雄（佐賀大学）

漢字学習の一手法として CAI システム利用がある。これまで種々の漢字 CAI システムが開発されているが、一般的に漢字学習の一部分を扱う傾向がある。漢字学習はある特定部分の学習だけでなく、関連する部分の学習も必要である。我々は種々の漢字学習を関連付けて行える学習環境の提供を目的とし、複数の漢字 CAI・電子辞書システムを統合する漢字学習環境 KALIST を開発する。本稿は特に WWW を利用する KALIST(WWW-KALIST) について報告する。

4. 英作文における語句選択を支援する用例マイニングツールの構築

三好康夫（徳島大学）、越智洋司（徳島大学）、岡本 竜（高知大学）、矢野米雄（徳島大学）

語学教育や作文支援にコーパスを活用している例は多く見られるが、これらの検索結果から、ユーザが語句選択の参考になる知識を得ることは容易でない。我々はその原因がキーワードベースの検索にあると考え、句構造ベースによる検索システムとその結果に基づく用例マイニングツールを開発した。本ツールは、指定した語を含む句の検索を行い、その句の前後に出現する句の頻度や出現パターンをマイニングにより提示することで、作文時の語句選択を支援する。

5. CAI 教材作成と修正による評価活動の分析
宮地 功, 辻村忠幸 (岡山理科大学)

Visual Basic によるドリル型 CAI システムを枠組みとして与えて, 学習者が考えた中学校や高校で使える教材を設計し, 作成する. 作成した CAI 教材を自己評価する. それを相互に学習し, 他者評価することによって, 自己評価力を身に付ける. 他者評価を分析し, 他者の教材を学習して内省する. これらによって自分の教材の作り方について振り返り, 自分の教材を修正する. 修正した教材について, 再自己評価と再他者評価する. このような活動を通して, 課題設定力, 自己評価力, 問題解決能力などを養成し, 創造する実験を設計し, 実践した. いくつかのアンケート調査を実施し, その結果の一部を報告する.

6. コ・メディカル学生に対する三次元動作解析データを用いた CAI の開発

金井秀作, 沖 貞明, 大塚 彰 (広島県立保健福祉大学理学療法学科), 黒瀬能幸 (近畿大学)

In clinical practice, the co-medical students are not only the knowledge but the ability to discover the patients' problem by observing their motion. So to bring up the ability by self-learning on World Wide web. we made motion analysis education system b CAI for by Physical Therapy Students in REHA co-medical. The basic structure of teaching materials is a HTML text form. In the question page, they answer the questions in the choice form and compare their results from the analysis with the right choice. Here, they are supposed to try to answer till their correct answer percentage reaches 100% or they answer more than 11 times.

And furthermore, in this page. they can refer to 3D motion analysis data with Polygon Viewer software, which is called a simulated experimental environment. CGI program that indicates both the correct answer percentage and the detailed explanations about the correct answers of the correct answer percentage or the number of answers is developed by Perl.

7. 逆ポーランド記法を用いたアルゴリズム学習支援システムのための基礎実験

岡村修司, 松島勇雄 (広島商船高等専門学校), 望月 要, 大西 仁 (メディア教育開発センター), 田中一基, 黒瀬能幸 (近畿大学), 矢野米雄 (徳島大学)

問題解決能力を高めるためには, 学習者が体験的に学習を行い, 試行錯誤を繰り返す過程で, 自らが概念形成を行う事できる学習が効果的である. このような学習支援システムでは, 学習の過程における学習者の振る舞いを知る事が重要である. そのために, 学習支援システムの利用を想定した基礎実験を行い, 学習者の振る舞いに関する知見を収集した. 本文では, 学習支援システムの概要と, 実験の結果得られた知見から学習支援システムが備えるべき要件について説明する.

